

# 提言書

令和5年2月20日

南アルプス市長 金丸一元様

南アルプス市自治会連合会  
会長 三枝守和

少子高齢化や市民ニーズの多様化から、多くの自治会は多種多様な課題を抱えています。このような中、行政においても高齢化や生産年齢人口の減少に伴う社会保障費の増大や税収の落ち込みにより財政状況は厳しさを増すことが予想され、その対応が困難であることは想像に堪えません。そのため、自治会を中心とした南アルプス市に関わる全ての市民が主体となって、地域課題を自ら考え解決策を講じながら実践していかねばなりません。

私たち南アルプス市自治会連合会常任理事会（第5期）では、コロナ禍で十分な協議を重ねることはできませんでしたが、令和3年度・4年度と2年間に渡り、3つの専門委員会に分かれ、課題の改善が少しでも実現できるように協議検討を重ねてきました。

この度、各専門委員会の協議結果がまとまりましたので、南アルプス市と自治会に対し提言します。

## 1 第1専門委員会：

### 「南アルプス市消防団の在り方に関する調査研究について」

近年、日本各地で大規模災害が発生するたびに、地域の消防団は地域防災の中核として注目され、欠くことのできない存在となっています。以前は、消防団に入団するのは当たり前、又は入団したくても入団できない時代もありました。

しかしながら、現在は若者の勤務形態も変わり、現役の消防団員の多くはサラリーマンで、勤め先も市外の人が多く、火災等の発生時に出動できない状況もあります。

また、消防団員の確保は年を追うごとに厳しさを増し、定員数に達していない分団（部）によっては部長から再度部員に戻って部を維持したり、自治会（組）の役員が消防団員として入団して維持している分団（部）がある状況であること

から、何か提案、提言して行きたいと考え、協議検討を実施しました。

分団（部）の維持存続が問題になっている実情を踏まえ、現在の町村合併時に決められた定員数ではなく、時代に合った定員数の見直しを行い、分団（部）の再編や行事の見直しを検討し、自治会もその取り組みに協力するよう提言します。

## 2 第2専門委員会：

### 「自治会での地域支えあい協議体への取り組みの調査研究について」

南アルプス市でも高齢化と人口減少が進む中で介護保険サービスでは対応しきれない生活支援も発生しています。地域の実情に応じて自治会が中心となって住民の困りごとを解決するため、地域の居場所づくりや高齢者への声掛けなどの活動について、何か提案、提言して行きたいと考え、協議検討を実施しました。

住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるように、地域でサポートし合う「地域包括ケアシステム」を目指す上で「地域支えあい協議体」は欠かすことができないものと考えます。

地域には経験豊富な人やボランティア活動に積極的な人材がいるので、そうした人材を活用していくことが大切であると考えます。市と協力関係を築き、市または自治会で把握している人材については、相互に情報共有しこれまで以上に積極的に「地域支えあい協議体」を推進し、自治会もその取り組みに協力するよう提言します。

## 3 第3専門委員会：「自治会への加入促進の調査研究について」

昨今の自治会を取り巻く環境は少子高齢化や核家族化、価値観の多様化などにより自治会加入率は減少傾向となっています。自治会役員が自治会未加入者に対し加入促進を行うにあたり、何か提案、提言して行きたいと考え、協議検討を実施しました。

現在の自治会加入促進ハンドブックは、自治会の必要性・活動について確認できる資料ではありますが、数年前に作成されたものとなるため内容を更新し、さらに簡単に活動内容が確認できる資料として自治会加入促進ハンドブックのダイジェスト版を作成しました。自治会会員の拡大に向け、より多くの自治会役員に配布し活用を促すことを提言します。